



農作業一口メモ

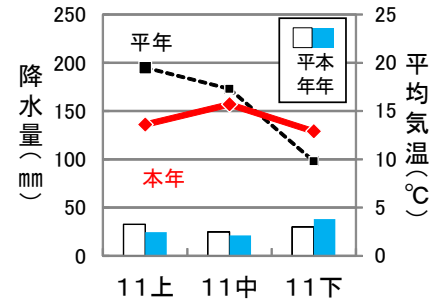
(平成28年12月号)

鳴門藍住農業支援センター
鳴門藍住地区農業生活指導班会

気象 <四国地方 1ヵ月予報(12月3日~1月2日)>

平年と同様に晴れの日が多いでしょう。向こう1か月の平均気温は、平年並または高い確率ともに40%です。週別の気温は、1週目は、高い確率50%です。

(平成28年12月1日高松地方气象台発表より抜粋)

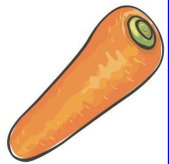


だいこん <12月の管理について>



- 天候が順調なため、生育が想定より早いほ場が見受けられます。大きすぎるものは価格も安いいため、肥大しすぎることのないよう適期収穫に努めてください。
- アブラムシが多発しているほ場が時折見かけられます。害虫の発生に注意して適切な防除を行ってください。

にんじん <12月の管理について>



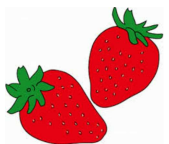
- 適期換気に努めましょう。被覆内気温は、土寄せ時期の本葉5~6枚まではやや高温の30℃を目安とし、初期の生育を促しましょう。
- 生育初期の乾燥に注意しましょう。
- 本葉3~4枚頃までに7~9cm間隔に間引きしましょう。
- 本葉5~6枚頃に芯葉が埋まらない程度に充分土寄せし、青首を防ぎましょう。

たまねぎ <定植活着後の管理について>



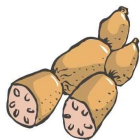
- 活着したら、初期の雑草発生を抑えるために土壌処理型除草剤を散布しておきましょう。土壌が乾燥していると効果が劣るので、土壌が適度に湿った状態で散布して下さい。必ず雑草発生前に散布し、散布後は処理層を壊さないため、土を動かさないようにして下さい。
- べと病の発生を抑えるため、活着後から定期的に薬剤を散布して下さい。

いちご <「さちのか」の管理について>



- 収穫期間中は、草丈が25cm程度になるよう電照条件の調整、温度管理(昼間22~25℃、夜間5~6℃を目安)、水分管理等に注意しましょう。
- 草勢が旺盛になりすぎた場合、地下部とのバランスが崩れ、株疲れの原因となります。また、生育期間全般にわたり、土壌水分の変化をできるだけ少なくし、冬場のかん水は午前中の収穫作業後に行い、夕方までに地温を上昇させるよう努めましょう。
- 収穫時は、果実の温度をできるだけ低い状態で維持し、品質保持に努めましょう。

れんこんく土壤分析に基づく施肥設計>



- 収穫の終わったほ場から土壤分析を行い、土壤中に肥料がどの位残っているかを把握し、効率的な施肥に努めましょう。
- 石灰の施用量が多い傾向にありますので、土壤の石灰含量とpHに注意しましょう。

なのはな <12月の管理について>



- 月2回程度、追肥を与えましょう。1回に10aあたりリン硝安カリ、またはNK化成を20kgが標準です。生育を見て加減してください。施用後に土寄せを行いましょ。
- 土が乾燥しすぎたら、灌水しましょ。

レタス <トンネル被覆について>



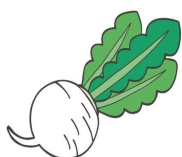
- 被覆が遅れると生育が悪くなるので、週間天気予報などを参考に早めの資材や作業の準備を行いましょ。
- トンネル被覆は寒害防止と結球促進のため12月上旬(平均気温10℃)頃を目安に行いましょ。また、トンネル内は日中25℃以上にならないように温度管理しましょ。

ブロッコリー<定植後の管理について>



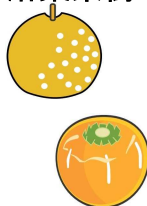
- 追肥は2～4回に分けて施し、花蕾が500円玉くらいの時期の追肥を最後としましょ。
- 病虫害予防として殺菌・殺虫剤の散布を行う。特に外葉にべと病の病斑が見られる場合は、組織内べと病の発生に繋がるので必ず防除しましょ。

かぶ <収穫の注意点について>



- 夏・秋播きの収穫が始まっています。小かぶは6cm程度、中かぶは12cm程度で順次収穫しましょ。
- 12月に入ると、早朝に葉が凍ることがあります。収穫は、茎葉の氷が溶ける朝9時以降夕方に行い、茎葉に傷がつかないように注意しましょ。

落葉果樹 <休眠期の病虫害対策について>



- カイガラムシ類、ハダニ類等の越冬害虫対策として、機械油乳剤が有効です。特に、近年はカイガラムシ類の発生が多くみられます。カイガラムシ類多発園では、できるだけ機械油乳剤を散布するようにしましょ。
- 落葉、病果は翌年の病害の発生源となりますので、園内に放置せず、土中に埋没する、持ち出す等できる限り処分しましょ。

鳴門藍住農業支援センターのホームページでも掲載しています。

http://www.pref.tokushima.jp/shien/naruto_aizumi/

※提案・お問い合わせについては、鳴門藍住農業支援センターまで

電話番号:088-692-2515